

この度は禍殃により学位記授与式が中止になったにも関わらず、修了生総代の言葉を掲載する機会を頂きましたことを心より御礼申し上げます。

我々修了生が今日、学位を取得できましたのも、先生方が確固たる指針をお示し下さったからであるとともに、先輩や同学からの御厚志に支えられたからであります。

思い起こせば、入学式の誓詞にあった「喝水不忘掘井人」(フー シュイ プー ワンヂュエ デン レン 水を飲むには井戸を掘った者を忘れるな)の如く、井戸を掘った先人の研究を忘れず、またいつか井戸を掘る者の一人となるべく、学問という広大な海へと漕ぎ出しました。

そして、大学院では、先生方の学識に敬服しながらも、幾分もその御教授を体現出来ぬ未熟な自分に恥じるばかりでありました。そのような思いを抱きつつも、車螢孫雪なる故事の如く、車胤が夏の夜に螢火を集め読書し、孫康が冬の夜に窓から入る雪明かりで読書しましたように、一心一意に学問に励んだことにより、実りある成果を得ることができました。

今後は賜った御恩に報いるべく、『論語』にある次の古諺に倣う所存です。

君子務本。本立而道生。 君子本を務む。本立ちて道生ず。

この古諺は、徳行が立派に身につく者は物事の根本に自ら進んで力を注ぐ者であり、何事も根本が確立すれば人として従い行くべき道はおのずから開けるものであるという意です。私共は、有栖川宮熈仁親王の告諭にもあります通り、「學問ノ道ハ本ヲ立ツル」が如く、根本に自ら進んで力を注いで学問の道を開き、「徳性ヲ涵養シテ以テ人生ノ本分ヲ盡クス」が如く、品性を磨き人としての本分を尽くし全うできますよう勇往邁進して参ります。

最後になりましたが、多大なる学恩を蒙りました諸先生方をはじめ、ご尽力を下さった大学職員の皆様に心より御礼申し上げます。加えて、私共が脇目も振らずに一心に学問に励むことができましたのも、志を信じてくれた家族の慈愛に満ちた心があったからだと感謝しております。そして、國學院大學並びに國學院大學大学院の益々の御発展を祈念しつつ、私の言葉と致します。

令和2年3月21日

國學院大學大学院 博士前期課程

修了生総代

文学研究科 文学専攻 中国文学コース

柴崎 一孝